

道東地区教会連合会機関誌



道東 28 こ う ほ う 光 報



'DÔTÔUKÔHÔ', Journal of KONKOUKYOU East Hokkaido reg., No.28 Apr.,2012

巻頭言

玉置みよ子

北海道にも春がようやくやくやくとやってきました。

○ 今冬は岩見沢などで交通網が絶たれたり、建物が倒壊したり、また函館などでは積雪量が気象観測始まって以来の新記録など雪害でずいぶんと大変な思いをされた事と思います。道東も2月などにはマインス20度を下回る日が続いたり、逆に湿った重たい雪の除雪にと我々もずいぶんと泣かされました。

○ とはいっても一年中雪の中というわけではなく、日々天候の変化の中で、我々は生かされているという事を理解し、受けていかなければならないと思います。天地の働きは人智を越えており、その中で生き物は全て等しく生か

されて生きているのであります。

○ 先日テレビで拝見したある医師の話ですが、「人間は自然の中に生まれ、自然の中で死んでいくのが当たり前でなければならぬ」と思う。現代医療は生命活動をやめるまで何かしらの治療を施している。人間の本来あるべき死の姿は自然でなければならぬ。

人間の自然死というのは実は『餓死』である。死に向かう時に何かしらの栄養などが必要としない。食欲が落ちるというのはそういうことの現れである。死の直前に点滴の一本でもと家族は言うが、あの中身を飲んだ事があるか。中身の成分はスポーツドリンクと同じで、多少のブドウ糖

が配合されているのである。実際にある家族に飲ませた事があるが、それでも点滴をすることが聞けば、『それなら必要ない』と言う。体が飢餓状態になると脳から興奮物質が出て体の痛み苦しみを感ぜなくなる。だから死の直前の体には痛み止めは必要ない」

○ この話を伺ってどのように皆さんは感じるか私は分かりませんが、私は「なるほど、その通り、人間は異常がなければ自然に誰の手も借りなくとも生まれるのに、死を迎えるときには誰かしたら何かしらの力を借りなければ死を迎える事を許されない。これが現代社会なのだ」と気付かされました。そうは言っても、いざ自分が死を迎えるときにはどうなるのか分かりません。自然のままに死を迎えたいと

は思いませんが。金光教の信心では天地のおかげのなかに生き、おかげの中で死んでいく。そして、おかげの中で医療の力をお借りして天寿を全うさせて頂ければと思います。

補足ですが、その医師は「40代50代の死に自然死はまぶずない。繁殖活動を終えた世代にのみ当てはまる。それは人間の細胞が限界を迎えるからである」とも笑いながらおっしゃっていました。ちなみにこの医師はテレビにお出になった時点で72歳でした。

○ 私のような若輩者がする話ではないと思いますが、最近の「なるほど」と思える話でしたので紹介させて頂きました。

北海道にもやってきた春。暖かい日差しの中でいっせ

いに草花が咲き乱れ、その陽気に誘われるように心もウキウキし始めますが、地に足を付けた信心と生活をして参りたいと思います。

(玉置)

	春	秋
各教会大祭日程	5月27日(日)	10月21日(日)
釧路	5月3日(祝)	11月3日(祝)
北見	4月15日(日)	11月18日(日)
十勝	4月22日(日)	
帯広	5月20日(日)	10月14日(日)
網走	6月10日(日)	10月7日(日)
滝上	90年記念大祭	11月11日(日)
帯広教会	50年記念大祭	6月10日(日)
滝上教会		

教会掲示板

教会からあれこれ

帯広教会

帯広市東四条南八丁目四番地
TEL 〇一五五―三三―六八三五
FAX 〇一五五―三三―六八三五

4月初旬、春は確かに近づいています。

しかし季節外れというか4月4日は大雪になりました。明日には雪は溶けると思っていても、重い雪を朝早くから除雪をしました。

毎年大祭のしおり作成のため、境内の福寿草やクロッカスの写真を撮っています。昨年は4月8日に撮影をしましたが福寿草のつぼみはまだ土の中でありませう。

○ 昨年の10月の読売新聞にこのようなコラムが載っています。

した。

北原白秋は歌っている。
〈薔薇ノ木ニ薔薇ノ花サ
ク。ナニゴトノ不思議ナ
ケレド。〉(『薔薇二曲』)

中略

このようにあるべきものが、あるべき場所にある。普段は気に留めぬ日常の風景がいかにありがたいものかを。

私たちの生活において、配偶者がいる、家族がいる、食べられる、生活ができる、そして命があるなど当たり前、普通のことのように思いがちです。これから福寿草、クロッカス、その後山菜が天地のはたらき、恵みの中で芽が出てきます。改めてすべてにお礼を申し上げなければと思えます。

○ ご本部では桜の中で大祭を迎えましたが、帯広の福寿草が咲く楽しみはもう少し先のようです。

(田中)

釧路教会

釧路市宮本一丁目五番二二号
TEL 〇一五四―四一―三五一
FAX 〇一五四―四一―三六一

○ お参り

近年は、暖冬の影響で零下15度を超える寒い日があったとしても、数日中には零下10度前後になっていった。

この冬、2月から3月は、ラニーニヤの影響か、偏西風の寒気が入ったためか、寒い日々が続いた。零下20度を超える日はそうなかったものの、零下15度を超える日が連日続いた。

○ そんな寒さの中だったが、

御前10時からではあったが、朝参りは欠かさず続き、それだけ神様に心を向ける稽古をしている。と言うことになるが、人間心を出せば、良く参拜が湯付いているものと感心する。

ただ、お参りの方は、常連の方々で、なかなか新しくメンバーに加わってくれる人はいない。

時々、メンバーでない方がお参りすることがあるが、「今日は何かあるのですか」とか、毎日朝参りを続けていることを知って、「偉いですねー」と言うが、お参りに加わらない。「一緒に参りしませんか」と言えば、とてもとても、つかまつたら大変と思うのか、…。

○ お参り一つでも、なかなかに続かない。

(江郷)

北見教会

北見市寿町三丁目五番一号
TEL 〇一五七―二四―七四七四
FAX 〇一五七―二四―七四七四

雪解けが進む庭先に顔をのぞかせる草木の芽や、埃舞う風が運ぶ春のぬくもり、すべてに冬から春へ確実に変わりゆく季節を感じる北国の四月は、天地の働きの有り難さを強く実感させられますが、それより確実に季節の変わり目を感じるのは、私の体調です。

○ ここ2週間ばかり、鼻づまり、鼻水、頭痛、咳、目の充血等々の不調が続いていて、風邪とも鼻炎とも言えぬ症状に悩まされています。今年は特にひどいので、風邪も引いているのかもしれないですが、毎年この時期には必ず罹る鼻炎なので、特に病院にも行かぬまま収まるのを待っています。

○ す。

それにしても、かなり辛く苦しく悲惨な状態で、天地の働きが及ぼす体調の変化にとまどいつつも、目に見えぬ働きの中に生かされていることを、自分の意志とは関わりなく体がそれを知らせることの不思議さに、神秘を覚えるほどです。

○ 元々アレルギー性鼻炎を持つているうえに、この症状は9月頃にも訪れるので、調べれば原因がわかるのかもしれないませんが、今のところそれ程ひどくないので、神秘の世界を持つていることをもう少し楽しんでみようかと思う日々です。

(矢代)

十勝教会

池田町旭町一丁目九番地二一
 TEL ○一五五七一一一三三二二
 FAX ○一五五七一一四二二三

この冬はまさに「厳冬」という言葉に相応しい厳しい冬となりました。

十勝教会でも昨年末から2月中頃までは氷点下20度を下回る日が続き、4月になればとつづくに消えているはずの雪山も未だ残っています。この分だと山の山菜シーズンは例年より少し遅れるのでしょうか。

さて、その寒さ厳しい十勝地方ですが、その中でも、日本屈指の寒さを誇る陸別町に「薫別講社」という十勝教会の地方講社が残っています。ここでは今でも毎月一回、主に千鶴子先生が出仕し信者さんたちが集まって講(月例祭)

を仕えています。

この講社は、教会の設立とほぼ同時期(大正九年)に活動が始まったのですが、もとは隣町の大譽地(足寄町)にあったものです。

大正末期から終戦後にかけてはかなりの参加者があったようで、広前を建て、常任の先生を置くまでになっていたほどです。しかしその後、大譽地周辺もご多分にもれず過疎化が進み、講社へ参拝される方も今では数軒を残すのみとなりました。

十数年前、講社の建物が老朽化し取り壊さなければならなくなつた時に、信者さんから「薫別にある自宅を講社の広前として使ってください」との申し出があり、今に続いています。

信者さんの数こそ少なくなりましたが、信心を失わず、

広前を守り、天地金乃神様の広前に参ることでおかげを頂く、という姿に「神も助かり氏子も立ち行く」という信心の根本を見た気がします。

(玉置)

網走教会

網走市北四条西一丁目六番地
 TEL ○一五一一四三一一三九五四
 FAX ○一五一一四三一一三九五四

滝上教会

紋別郡滝上町元町士別通り

(今回は二教会合同の内容です)

四月八日の御本部の大祭に参拝のおかげを蒙りました。岡山は花盛りでいたるところに桜が満開の花を咲かせています。気温も二十度と暖かく春霞の花咲く参拝道は本当に心地よいものでした。

祭典の一時間くらい前だっ

たでしょうか、一通のメールが届きました。大学院の博士前期課程を今春、見事卒業したF君からでした。

在学中よく教会に参拝していました。参拝するとお結果で、あるいは下がってコーヒーでも飲みながら、彼自身の悩みから信心の話まで色々な話しをします。一〜二時間は当たり前でした。暗い顔で参ってきていても、話しをしているうちに愁眉がひらけ、帰る時には明るい笑顔をとりもどしてくれることが、とてもありがたいことでした。

しかし、時には暗いままで帰ってしまうことやちよつとした口論になったりということもあり、そうした時は取次者としての不甲斐なさややるせなさに苛まれ、神様にお詫びし、また参ってきますようにと祈ります。

今はそれらも懐かしく思い

出せますが、当時は本当に必死でした。

○ メールには「十二時四十分頃、金光駅に着きます。どこに行けば先生と会えますか」とありました。会って直接報告したいことがあるとのこと、なんとお母さんも一緒に私に会いに来てくれたんです。こんなに嬉しいことはありません。ご大祭も一緒に参りし、その後境内で立ち話ではありましたが、色々話しをしました。進路のことについての自分の決意を聞いて欲しかったそうです。

○ 「参ってきたら参っただけのおかげがある」と教えにありますが、日参に近い彼の参拝振りは、たいへんなものでした。久しぶりにあった彼の様子や笑顔を見ながら、本当におかげを頂き、よくぞこ

までお育て頂いたおかげ頂いてくれたと感謝せずにはおれませんでした。

○ そして今、改めて思います。彼のお育てを喜ぶといいますが、お育て頂いたのは彼のみではありませんでした。彼の両親は親としてのありかた信心の大切さを学び、そして私もまた、彼が抱えている問題をとおして、取次者としての姿勢など多くの事を学びました。取り次ぎ、取り次がれるもの双方が育ち合うという結果に、大変な驚きを感じ、少々オーバーですが、金光大神取次のなんとるかをさえ垣間見た気がするのです。

○ ご大祭シーズン、今年も網走、滝上ともによくお願います。特に滝上は教会設立五十年を迎えました。ありがたいことです。

(菊川)

道東地区教会連合会ホームページ <http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/DOTO>

行事報告

▼平成23年度 道東地区教会連合会役員会

・日時 平成23年10月30日(日)

・場所 北見教会

・出席者 連合会役員7名

・内容 平成23年度連合会活動内容、会計について。

平成24年度活動計画案、予算案について。

▼平成24年度 道東地区教会連合会総会

・日時 平成24年3月24日(土)

・場所 阿寒湖温泉ホテル御前水

・出席者 15名(連合会役員。各教会信徒委員)

・内容 平成23年度連合会活動内容、会計について。

平成24年度活動計画案、予算案について。

◎活動計画の詳細については次頁をご覧ください。

記念祭

▼帯広教会 布教九十年記念大祭 11月11日(日)

▼滝上教会 設立五十年記念大祭 6月10日(日)

平成24年度 道東地区教会連合会・北海道教区の主な行事

●第12回 道東地区教会連合会交流パークゴルフ大会

日 時 平成24年6月16日(土) 14時

場 所 帯広市周辺

終了後、会場を移動して懇親会の予定

●道東地区教会連合会研修会

日 時 平成24年6月17日(日) 9時～12時まで

場 所 帯広教会

内 容 「一人ひとりの信心の向上、展開を願って」(講話を受けて懇談)

講 師 佐藤満雄先生(旭川教会長)

●道東地区 青年・家族交流キャンプ

日 時 平成24年7月14日(土) 17時～15日(日) 11時

場 所 池田町まきばの家キャンプ場(宿泊はロッジ)

内 容 家族連れで参加できる懇談会を兼ねた懇親会(バーベキュー)です。

●道東地区 信徒懇談会(共励会)

日 時 平成24年7月14日(土) 14時～16時

場 所 十勝教会

内 容 自由懇談会です。

●教区少年少女キャンプ「みどりのひろば」

日 時 平成24年8月3日(金)～5日(土)

場 所 かなやま湖畔キャンプ場(南富良野町)

●教区青年の集い「どさんこパーク」

日 時 平成24年8月25日(土)～26日(日)

場 所 幌加内町ふれあいの家まどか(幌加内町朱鞠内)

※各行事につきましては期日が近づきましたら改めてご案内をいたします。

神人あいよかけよの生活運動

願
い

御取次を願ひ頂き

神のおかげにめざめ

お礼と喜びの生活をすすめ

神心となって人を祈り助け導き

神人の道を現そう



KONKOKYO
金光教